

第5学年2組 算数科学習指導案

日 時 令和元年度 10月23日 (水)

指導者 5年2組 教諭 J

場 所 I小学校 5年2組教室

1 単元名 「単位量あたりの大きさ」

2 単元の目標

○異種の2量の割合としてとらえられる数量について、比べることの意味や比べ方、表し方を理解し、それをを用いることができる。

3 単元の評価規準

[関心・意欲・態度]

○単位量あたりの大きさをを用いると、異種の2量の割合としてとらえられる数量を数値化して表せたり、能率的に比べられたりすることの良さに気づき、生活や学習に生かそうとする。

[数学的な考え方]

○異種の2量の割合としてとらえられる数量について、単位量あたりの大きさをで比べることの有用性をとらえ、用いることができる。

[技能]

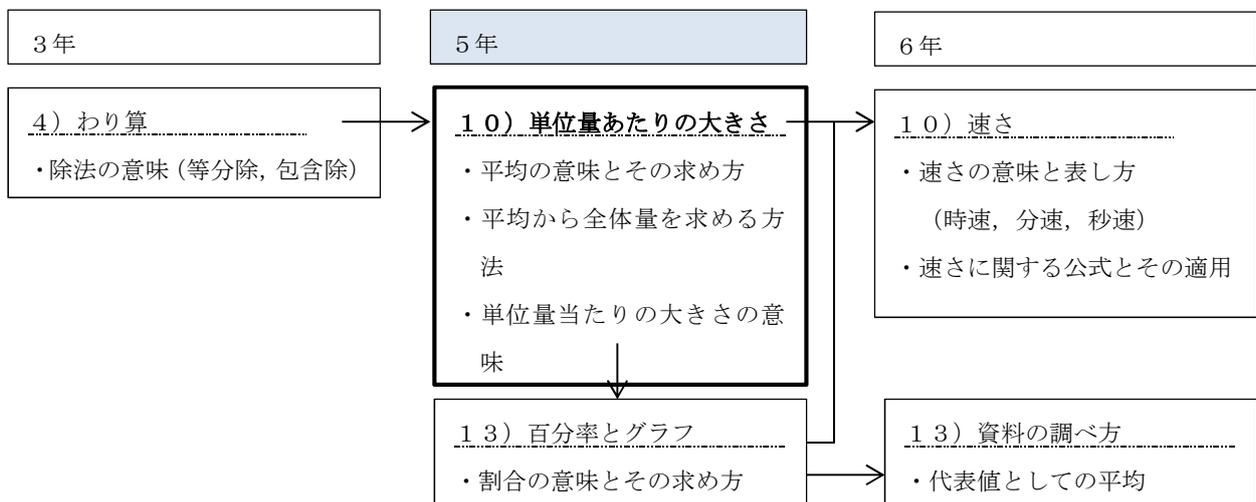
○異種の2量の割合としてとらえられる数量を単位量あたりの大きさをを用いて比べることができる。

[知識・理解]

○異種の2量の割合としてとらえられる数量を単位量あたりの大きさをを用いて比べることの意味や比べ方について理解する。

4 単元について

(1) 教材観



本単元で扱う単位量当たりの大きさは、学習指導要領には以下のように位置づけられている。

第5学年 B 量と測定

(3) 量の大きさの測定値について理解できるようにする。

ア 測定値の平均について知ること。

(4) 異種の二つの量の割合としてとらえられる数量について、その比べ方や表し方を理解できるようにする。

ア 単位量当たりの大きさについて知ること。

本単元は、平均の意味や求め方、活用の仕方などを学習する第1小単元と、単位量当たりの大きさを使っての異なる二つの量の比較、人口密度などを学習する第2小単元の二つで構成されている。

本時で扱う第2小単元では、これまでに学習してきた長さや重さなどの量の他に、混み具合や収穫高のような異なる二つの量の割合としてとらえる数量があることを知らせていく。そして、それらの比べ方や表し方について理解し、用いることができるようにすることをねらいとしている。

面積と人数のように異なる二つの量の割合としてとらえる量は、その一つの数量だけを取り出して比べることができない。さらに、単位となる数量のいくつ分として数値を用いて表す測定の考えでも数値化することができない。

そこで、この異種の二つの量の割合としてとらえる量を、どのようにして比べていけばよいのか、どのようにして数値化すればよいのか、ということについて考えていくことになる。第1小単元で学習した平均の考えを基にして、二つの数量の間に比例の関係があることを前提として解決していく。つまり、二つの数量のどちらか一方をそろえて、もう一方の量で比べる方法である。その際、公倍数の考え方でそろえていくこともできるが、三者以上を比べる場合での効率性や、一般性の観点から、単位量当たりの大きさを比べるよさについて理解できるようにしていく。

(2) 児童観

掲載省略

(2) 指導観

第1小単元では、平均の意味や求め方、活用の仕方などについて扱う。ここでは、本時にかかわる第2章小単元について、具体的に述べる。

第2章小単元では、次の二つの段階を通して学習を進める。まず、第1段階として、単位量当たりの大きさを表された量や数値を用いて、身近な事象の比較を行う。児童が目的意識を持って主体的に考えることができるよう、導入の場面では実際にマットに指定した人数を乗せ、混み具合を体感させる。その際、条件をそろえて比較する段階を大切にする。具体的には、①面積が等しければ、人数の多いほうが混んでいる。②人数が等しければ、面積が

小さいほうが混んでいる。ということを抑える。その上で、本時の課題となる、「面積も人数も異なる場合はどのように比べたらよいか」という課題に出会わせたい。自力解決の場面では、導入で抑えた①や②の考えに帰着できるようにする。また、公倍数の考え方も取り上げながら、さらに多くの資料を比べる場合をイメージさせ、単体量当たりの大きさをを用いて比べることのよさを理解できるようにしたい。

第2段階では、人口密度について扱う。人口÷面積の計算処理だけで終わらせるのではなく、自分の住んでいる地域の人口密度を調べさせるなど、児童が意欲的に取り組めるよう工夫する。

5 研究テーマとの関わり

視点1 日常生活の事象を数理的に捉えさせる。

<手立て>

- ・児童が目的を持ち、主体的に考えることができるような課題との出会い方を工夫する。

視点2 見通しを持ち、筋道を立てて考え、表現させる。

<手立て>

- ・既習事項を想起させ、解決の見通しをもった上で自力解決ができるようにする。

視点3 学習の振り返りを充実させる。

<手立て>

- ・振り返りの観点を明確にし、児童が何を学んだのか、学んだことをどう生かせるのかを振り返らせる。

6 指導と評価の計画（14時間扱い 本時8／14）

時間	ねらい	主な学習活動	主な評価規準（方法）
第1次 平均（6時間）			
1	平均の意味と求め方について理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・「ならず」ということの経験や意味を話し合う。 ・6このオレンジから絞ったジュースの量から、1個当たりに絞れる量について考える。 	[関]平均を計算で求める方法を考えようとしている。（行動観察・ノート）
2		<ul style="list-style-type: none"> ・ならした量を計算で求める方法を考える。 ・用語「平均」を知り、求め方をまとめる。 ・平均を求める問題の解決を通して、平均の意味や求め方を確かめる。 	[技]平均を計算で求めることができる。（ノート）
3	平均から全体量を求める方法を理解することができる。	<ul style="list-style-type: none"> ・前時で求めた、1個のオレンジからとれたジュースの平均の量から、20個ではどれだけの量になるか考える。 	[考]平均の意味や数直線を基に、平均から全体量を予測する方法を考え説明している。（行動観察）

		<ul style="list-style-type: none"> 平均を使って、全体量を予測する。 	[技]平均から全体の量を求めることができる。(ノート)
4	値に0がある場合の平均の求め方や、分離量でも平均値は小数で表す場合があることを理解する。	<ul style="list-style-type: none"> サッカーの1試合当たりの平均得点について考える。 平均を求めるときは0を含めて考えることや、分離量であっても平均が小数になる場合があることが分かる。 仮平均について知る。 	[知]平均を求める目的に応じて0も含めて平均を求めることや、分離量の場合でも平均の値を小数で表してよいことを理解している。(ノート)
5	算数的活動を通して、学習内容の理解を深める。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の1歩の歩幅を平均の考えを使って求め、それを使って実際にいろいろな距離や道りを調べる。 	[関]学習内容を活用し、活動に取り組みようとしている。(ノート)
6	学習内容を活用して問題を解決する。	<ul style="list-style-type: none"> 「力をつけるもんだい」に取り組む。 	[技]学習内容を活用して問題を解決することができる。(ノート)
第2次 単位量当たりの大きさ (8時間)			
7	混んでいるとはどのような状態か理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 単元の扉絵や、実際に模造紙に乗る経験を通して、混んでいるとはどのような状態なのかを話し合い、考える。 面積か人数の一方が同じ場合、混み具合が比較できることを知る。 	[関]体験活動に進んで参加し、混んでいるとはどのような状態か進んで話し合いようとしている。(行動観察)
8 (本時)	面積、人数が異なる場合の混み具合の比べ方を理解し、比べることができる。	<ul style="list-style-type: none"> 面積と人数がそれぞれ違う場合に、どちらかをそろえればよいことを考える。(異なる二つの量の比較) 	[考]混み具合を比べるときには、どちらか一方をそろえることを理解し、説明している。(行動観察・ノート)
9		<ul style="list-style-type: none"> 調べる数が多くても、混み具合を一度に比べやすい方法を考える。(異なる三量の比較) 面積をそろえて1㎡当たりの人数で比べたり、人数をそろえて1人当たりの面積で比べたりすればよいことをまとめる。 	[考]混み具合を比べるときに、単位量当たりの大きさをういて比べるとよいことを考え、説明している。(行動観察・ノート)
10	人口密度の意味とその求め方を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> 北海道と沖縄県の人口密度を比べる。 自分の県や馴染みのある県の人口密度を求める。 	[技]人口密度を求めることができる。(ノート)

1 1	単位量当たりの大きさをを用いて、問題を解決できる。	・米のとれ具合を、単位量当たりの大きさをを用いて調べる。	[技]単位量当たりの大きさをを用いて、二つの資料を比べることができる。 (ノート)
まとめ (3時間)			
1 2	学習内容を活用して問題を解決する。	・「力をつけるもんだい」に取り組む。	[技]学習内容を活用して問題を解決することができる。 (ノート)
1 3	算数的活動を通して、学習内容の理解を深める。	・身の回りから単位量当たりの考えを使っている場面を探す。	[関]学習内容を活用し、活動に取り組もうとしている。 (行動観察・ノート)
1 4	学習内容の定着を確認し、理解を確実にする。	・「しあげ」に取り組む。	[知]基本的な学習内容を身につけている。 (ノート)

7 本時の指導 (14時間扱い 本時8 / 14)

(1) ねらい

面積，人数が異なる場合の混み具合の比べ方を理解し，比べることができる。

(2) 視点と手立て

視点2 見通しを持ち，筋道を立てて考え，表現させる。

〈手立て〉AとCの部屋の混み具合を自力解決する場で，キーワードとして「そろえる」ということを意識させる。既習事項を想起させ，具体的に問題解決の方法を考えられるようにする。さらに1平方メートルあたりや一人あたりの量にも着目させる。

視点3 学習の振り返りを充実させる。

〈手立て〉学習感想を書かせることで，1単位時間に何ができるようになったのかを振り返らせ，児童に学びの実感を味わわせるほか，教師が児童の実態を見取り，次時への支援に活用できるようにする。

(3) 準備物

教師：タブレット端末，TV

児童：教科書，ノート，筆記用具，電卓

(4) 指導過程

段階	学習段階 教師の働き掛け (○)	主な学習活動 (●) 予想される児童の反応 (C)	指導上の留意点 (◇) 評価【評価規準】(方法)
つかむ (5)	<p>1 既習事項を振り返り, 学習問題をつかむ。</p> <p>○既習事項を振り返らせる。 ・「A と B で混んでいるのはどちらですか？」</p> <p>・「B と C で混んでいるのはどちらですか？」</p> <p>○混み具合を比べるには面積と人数の二つの量に関係していることをつかませる。</p> <p>○学習課題を提示する。 ・「A と B では A が混んでいる。B と C では C が混んでいる。あとはどの部屋とどの部屋を比べたらいいかな。」</p>	<p>●既習事項を振り返る。 C1 : A の部屋の方が混んでいます。面積が同じなのに, A の部屋の方が人数が多いからです。</p> <p>C2 : C の部屋の方が混んでいます。人数が同じなのに, C の部屋の方が面積がせまいからです。</p> <p>●学習課題をつかむ。 C3 : A の部屋と C の部屋を比べればいい。</p>	<p>◇部屋の面積と人数は公倍数にしても考えやすい数値にする。</p> <p>・ A の部屋 面積 6 m² 人数 9 人</p> <p>・ B の部屋 面積 6 m² 人数 8 人</p> <p>・ C の部屋 面積 5 m² 人数 8 人</p> <p>◇ 3 部屋の比較から B を除外し, 2 部屋の比較に焦点化する。</p>
	A と C の部屋では, どちらが混んでいるか比べよう。		
考える (10)	<p>2 A の部屋と C の部屋の混み具合を調べる方法を考える。</p> <p>○比べ方の見通しを持たせる。 ・「どうしたら混み具合を比べることができるかな。」</p> <p>○面積も人数も異なる場合の比べ方について考えさせる。(自力解決)</p>	<p>C4 : 部屋の面積も人数も違うよ。</p> <p>C5 : 昨日考えたように, 面積か人数のどちらかをそろえればできそうだ。</p> <p>●A の部屋と C の部屋の混み具合を比べる。</p>	<p>◇なぜ A と C の部屋は比べられないのかということを見童に投げかけ, そろえるという概念を与える。</p> <p>◇視点 2 キーワードとして「そろえる」ということを意識させる。同じ面積や同じ人数にするための手立てとして, 公倍数に着目させる。</p>

	<p>～面積をそろえる考え～</p> <p>C6：面積をそろえて考えよう。6と5の公倍数30を使うと…</p> <p>Aの部屋</p> $30 \div 6 = 5$ $9 \times 5 = 45 \text{ (人)}$ <p>Cの部屋</p> $30 \div 5 = 6$ $8 \times 6 = 48 \text{ (人)}$ <p>つまり、面積をそろえると、人の多い <u>Cの部屋の方が混んでいる。</u></p> <p>C7：1㎡あたりの人数を比べよう。</p> <p>Aの部屋</p> $9 \div 6 = 1.5 \text{ (人)}$ <p>Cの部屋</p> $8 \div 5 = 1.6 \text{ (人)}$ <p>同じ面積に多くの人がいる <u>Cの部屋の方が混んでいる。</u></p>	<p>～人数をそろえる考え～</p> <p>C8：人数をそろえて考えよう。9と8の公倍数72を使うと…</p> <p>Aの部屋</p> $72 \div 9 = 8$ $6 \times 8 = 48 \text{ (㎡)}$ <p>Cの部屋</p> $72 \div 8 = 9$ $5 \times 9 = 45 \text{ (㎡)}$ <p>つまり、人数をそろえると、面積の狭い <u>Cの部屋の方が混んでいる。</u></p> <p>C9：1人あたりの面積で比べよう。</p> <p>Aの部屋</p> $6 \div 9 = 0.66666\dots$ <p>Cの部屋</p> $5 \div 8 = 0.625$ <p>一人分の面積が狭い方が混んでいるから、<u>Cの方が混んでいる。</u></p>	<p>～予想される誤答～</p> <p>C10：どちらも1㎡に1人ずつついたら3人余るから、<u>混み具合は等しい。</u></p> <p>◇考えが浮かばない児童にはヒントカードを示し、自力解決につなげる。</p> <p>◇机間指導をしながら、取り上げたい考えを書いた児童のノートをタブレットで撮影し、全体共有の場面で活用できるようにする。</p>
<p>広げ る ・ 深 め る (20)</p>	<p>3 考えたことを全体で共有し、広げ深める。</p> <p>○考えたことを自由発表させる。</p> <p>○自力解決の方法を全体発表させる。友達の考えと自分の考えを比べながら聞くように促す。</p>	<p>●考えを伝えたい友達に発表をする。自分と違う考えはメモを取りながら聞く。</p> <p>●考えを発表したり、友達の考えを聞いたりする。</p>	<p>◇自由に歩いて会った友達と発表し合うことで、気軽に話せる環境を作る。</p> <p>◇机間指導の際に撮影したノートの画像をタブレットからテレビ画面に映し、児童がそれを指し示しながら説明できるようにする。</p> <p>◇互いの考えの良さに目を</p>

ま と め る (10)	5 振り返りをする。	●ノートに算数日記を記入する。	向けさせる。 ◇視点3 観点を示し、できるようになったことを児童が実感できるようにする。 ◇できるだけ児童の算数日記の言葉からまとめるようにする。 【数学的な考え方】 混み具合を比べるときには、どちらか一方をそろえることを理解し、説明している。 (ノート・行動観察)	
	6 今日のまとめをする。	混み具合を比べるには、面積と人数の二つの量のうち、一方をそろえれば比べることができる。		
	7 次時の予告をする。 ○新しい部屋がもう一部屋あることを告げ、たくさんものを一度に比べやすくするためにはどの考えがよいかという関心を持たせる。			

(5) 本時の評価

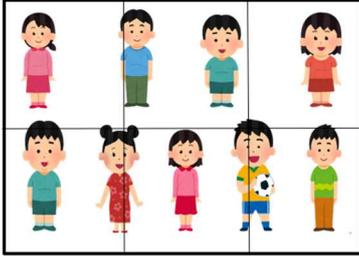
本時の評価規準	混み具合を比べるときには、どちらか一方をそろえることを理解し、説明している。
十分満足できると判断できる児童の姿	混み具合を比べるときには、どちらか一方をそろえることを理解し、自分の考えと友達の考えを比較しながら筋道を立てて説明している。
支援が必要と判断される児童への手立て	ヒントカードを使いながら、混み具合を比べるときにはどちらか一方をそろえれば比べられることを説明する。

(6) 板書計画

10/23 (水) P. 11	②単位量あたりの大きさ		○AとC どう比べる？ (考え)
	A	C	自力解決で出た考え
	面積がそろっているなら 人数が多い方がこんでいる。		
	人数がそろっているなら 面積がせまい方がこんでいる。		A. AとCではCの部屋が混んでいる
AとCの部屋では、どちらがこんでいるか比べよう。		まとめ 混み具合を比べるには、面積と人数の二つの量のうち、一方をそろえれば比べることができる。	

ヒントカード

〈A の部屋〉



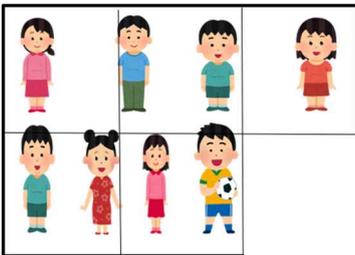
6㎡に9人の人がいます。

では、1㎡あたりなら、何人の人がいることになるかな？

式

A. 1㎡あたり _____ 人

〈C の部屋〉



5㎡に8人の人がいます。

では、1㎡あたりなら、何人の人がいることになるかな？

式

A. 1㎡あたり _____ 人

つまり、の部屋の方がこんでいる！

面積を1㎡にそろえて考えたね！同じようにして〇〇をそろえる方法はないかな？

教師の発問・支援	児童の反応
<p>1 既習事項を振り返り，学習問題をつかむ。</p> <p>AとBではどちらが混んでいた？</p> <p>BとCではどちらが混んでいた？</p> <p>混み具合を比べるときには何と何が必要だった？</p> <p>もうBは比べなくても大丈夫かな？ 一番空いているんだよね？ あとは，AとCを比べれば，混み具合の順番が分かるね。</p> <p>2 Aの部屋とCの部屋の混み具合を調べる方法を考える。 めあてを書きましょう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> AとCの部屋では，どちらがこんでいるか比べよう。 </div> <p>T君，なぜ前回困っていたか教えてくれるかな。</p> <p>ほかにT君の困っていたことを説明できる人はいらなかな。</p> <p>そうだね。今のままでは比べられないね。どうしたらいいかな？</p> <p>キーワードはそろえる 面積をそろえても，人数をそろえてもどちらでもいいです。</p> <p>今から考えてもらうことは，</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> AとCの部屋のこみぐあいどう比べる？ 〈考え〉 _____をそろえる </div> <p>線のところに，人数か面積かを書いて，その下に考え方を書きましょう。どうかな。できそう？</p>	<p>児童の反応</p> <p>Aの部屋です。 面積は同じだけど，Aの方の人数が多いからです。</p> <p>Cの部屋です。 人数は同じだけど，面積がCの方が狭いからです。</p> <p>面積と人数です。</p> <p>はい。</p> <p>はい。</p> <p>ノートにめあてを記入する。</p> <p>面積と人数がそろっていないから比べにくいです。 人数も面積もそろっていないからT君は困っていました。</p> <p>一人分の面積で考える。 人数か面積かそろえて考える。</p> <p>はい。</p>

1 個考えた人は、2 個、3 個と次を考えましょう。

おいしいところまでいっている人がいっぱいいるよ。

面積そろえるところまで考えた人いたね。M ちゃんは何の考え方を使った？
面積を勝手に広げていいの？

3 考えたことを全体で共有し、広げ深める。

交流タイムします。立ちましょう。

A 一人当たりの面積で考えると

$$\square \times 9 = 6$$

$$\square = 6 \div 9$$

$$6 \div 9 = 0.67$$

一人あたり 0.67 m^2

では、C について。□を使った式で表すと？

C $\square \times 8 = 5$

$$\square = 5 \div 8$$

$$5 \div 8 = 0.625$$

一人あたり 0.625 m^2

だから、Cの方が混んでいますね。

公倍数です。

全員起立。

自由に歩いて、お互いの意見を発表し合う。

面積でそろえて考えました。

5と6の公倍数は30なので、 30 m^2 にそろえました。Aは人数も5倍して45人にしました。Cは人数を6倍して48人にしました。

私は面積で考えました。公倍数の 30 m^2 にしました。勝手に面積を増やしてしまったので、それぞれ人数も増やしました。

Aの部屋は、 $9 \times 5 = 45$ 人

Cの部屋は、 $8 \times 6 = 48$ 人

AとCの一人分の面積を出しました。

面積わる人数でどちらも求めます。

Cが0.625, Aが0.67

Aの方が一人あたりの面積が広いので、Aの方が混んでいません。

$$\square \times 8 = 5$$

これを変形して、O君は考えてくれました。
一人当たりの面積を出したんですね。
どちらの面積が狭いかな？

Cです。

ほかにO君の考え方をした人は？
ほかにだれもいないすばらしい考え方でしたね。

(挙手なし)

4 振り返りをする。

算数日記を書きましょう。
友達のこんなことが参考になったなどを書きま
す。

AやCのようにそのままでは比べられないものを
どうやったら比べられるかを勉強しました。私は
公倍数で求めたけれど、私とちがう図などを書い
ている人もいました。一人あたりの面積で求める
ことができることも分かりました。

面積と人数がちがくても、最小公倍数などを使っ
て求めることができる。

5 今日のまとめをする。

K君のように1㎡あたりの人数を出した人もいま
す。
ヒントカードを提示。
同じ面積だったら、人数が多い方と少ない方どち
らが混んでいるの？

多い方。

まとめ

こみぐあいを比べるには、公倍数や1㎡あたり
の人数、一人あたりの面積を求めて考えるとよ
い。

みなさんどちらがやりやすい？
公倍数の方が考えやすかった人は？
O君やK君のように、ひとりあたりの面積や1㎡
あたりの人数の考え方が考えやすかった人は？

(児童挙手)

(児童挙手)

割れますね。
次回はこんなことを考えます。
次回の課題の絵を提示。
どのように考えたらよいかまた考えましょう。

第6・7地区授業検討会記録

授業者 I 小学校 教諭 J
 指導助言者 K 小学校 教頭 L
 記録者 M 小学校 教諭 N

1 自評

- ・ 13時間扱いの単元をあえて14時間で計画した。本時の活動を2時間に分けた。
- ・ 自力解決においての見通しの持たせ方→面積・人数のどちらか
- ・ 面積をそろえても人数をそろえられない児童が多かった。助言の仕方をどうすべきか。
- ・ 算数日記を書いてから、児童の言葉でのまとめは効果的か。まとめがよくまとめられなかった。まとめが感想にならないように、あえて感想を先に行った。

2 質問

特にございませんでした。

3 協議

成果	課題	その他
<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの学習の掲示物 ・ 課題の明確化→そろえる見通し。 ・ 公倍数の定着。 ・ 交流がよい。 ・ 数直線による単位量の確認が根拠に。 ・ 算数日記のコメントで意欲が上がる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 面積だけ増やした→「二部屋だった何人？」 ・ やりとりで単位量が出たのでは。 ・ まとめに児童のことばで「そろえる」が出せたら。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時の紹介をすることで単位量と公倍数で分かれるのでは。楽しみ。
<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既習事項の振り返り声かけ、掲示物、板書によってよくできていた。 ・ どちらかをそろえるの意識・焦点化が有効。 ・ 日々の訓練の賜物 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自力解決の際に条件（数直線・図まど）をつけると数直線がでたのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日々の声かけがよい。 ・ 関係がよい。
<p>C</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 既習事項がよく身につけていて、流れがスムーズ。 ・ そろえるのキーワードがよく入っていた。 ・ 「面積だけ増やすの？人数は？」の声かけがよかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ そろえるで終わってしまった・・・例えば、イラストなど使うのは・・・単位量とは離れてしまうが・・・。 ・ まとめをしてから日記に。子供の言葉でのまとめをしてからだ、まとめに近い感想になったのでは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 意見を言いやすい雰囲気。
<p>D</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 見通し。そろえるというキーワードを与えたのがよかった。既習事項の掲示物が有効。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見通しや前時の段階で比例を抑えてから本時に。 ・ 単位量あたりの児童の意見を掘り下げると単位量に落ちたのか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次時は公倍数と単位量とどちらがよいかを考える場面なので、本時はここまででよかったのでは。

		<ul style="list-style-type: none"> ・児童と比較検討していくと、振り返りをする前でもまとめにつながるのでは。 ・課題とまとめの整合性。 	
--	--	--	--

成果

- 既習事項の定着
 - ・教室の掲示
 - ・AとB BとCの比較
 - ・焦点化 AとCどちらもそろっていない。
- 児童の意見がでなかった時の教師の問い返しの有用性。
- ICTの活用。児童の意見を残すための板書。
- 交流タイムの有用性→気付き
- 教師の適切な補足説明。
- 算数日記よい。

課題

- 比例概念の押さえ面積を増えれば伴って人数も増える→面積図・数直線図の活用。
- 1人あたりの面積→1㎡あたり的人数のつながりと意識して。大小関係に着目して。
- まとめの言葉の吟味。虫食いという方法もある。

4 指導助言

- 指導計画
 - ・児童の実態に応じた計画で◎
- 見通しをもち筋道を立てて
 - ・混んでいることの意味理解は掲示物によってよく表されている。
 - ・そろえる→スタート，数を同じにする。既習事項の重要。1あたりは二年生でも三年生でも出てくるので，下学年から丁寧に扱う。
 - ・電卓の使用は，よかった。
 - ・数直線図→小数が出てきてからより有効。
 - ・面積を大きくしたらもう一方も・・・4年生でも出てきている。
 - ・次時で公倍数のやりにくさを感じる流れになっている。
- 発表のさせ方
 - ・交流◎→これまでの成果。
 - ・タブレットの活用→時間を有効に使う手段としても有効。情報活用能力を養う上でも有効。各学校で実践を。
- 振り返り
 - ・観点をそろえることが大切なので，キーワードが大切。
 - ・振り返りと感想は違う。振り返りは学習内容のキーワードをしっかりと押さえさせる。
 - ・毎回のコメントは大変なので，学習のポイントやキーワードに教師が線を引くだけでもよい。
 - ・ヒントカードの取り上げ方→考えがでない時には必要。準備があつてよい。
- 最後に
 - ・自分だったらという思いで授業を参観してほしい。
 - ・素晴らしい授業でした。